

平成29年度 第1回松本市都市計画策定市民会議 議事録

開催日時： 平成29年6月29日（木）午後2時00分から午後3時30分まで  
開催場所： 松本市役所東庁舎 第二委員会室  
出席委員： 中出文平委員長（長岡技術科学大学副学長・教授）  
小林忠由副委員長（アルピコ交通株式会社松本支社長）  
奥直久委員（株式会社商工組合中央金庫松本支店長）  
横山洋子委員（松本市農業協同組合理事）  
舟久保辰男委員（松本市医師会理事）  
等々力美代子委員（松本市社会福祉協議会地域福祉課長）  
山中正二委員（長野県宅地建物取引業協会理事）  
平林大喬委員（松本市町会連合会長）  
坂口一俊委員（松本建設事務所計画調査課長）  
その他： 松川寿也助教、丸岡陽（長岡技術科学大学）  
事務局： 小出建設部長、桐沢都市政策課長、丸山課長補佐、柳澤課長補佐、岩淵主査、脇谷技術員

## 1 開会

（事務局）

平成29年度第1回松本市都市計画策定市民会議を開会する。

## 2 あいさつ

（事務局）

今年度は3名の委員が変更となった。よろしくお願ひしたい。

松本市は、今年の3月31日に立地適正化計画の都市機能誘導区域を定めて、公表した。全国では106都市が公表しており、県内では本市を含め6市が公表した。立地適正化計画は集約型都市構造を実現する第一歩であり、今後は居住誘導区域を定めていくことになる。昨年度に引き続き委員それぞれの分野からのご意見をいただきたい。

## 3 委員紹介

（事務局）

- ・変更となる3名の委員の紹介（舟久保委員、等々力委員、坂口委員）
- ・資料の確認

## 4 議事

### (1) これまでの検討経過と今後の進め方について

（委員長）

松本市では、昨年度都市機能誘導区域を設定し、公表した。今後は来年度にかけて居住誘導区域を定めていくことになる。資料の説明をお願いしたい。

(事務局)

・資料1及び資料2の1を説明

(委員長)

分からないことがあれば、質問をしていただきたい。松本市では、8つの都市機能誘導区域を定め、都市機能を誘導することとした。今年度予定している地域別意見交換会では、都市機能誘導区域を説明したうえで、居住誘導区域を定めるに当たってのニーズを聞くのか。

(事務局)

今後の都市構造を広く市民に理解してもらうことが重要である。日頃の生活における地域の課題や、最寄りの拠点へ出かけるためのアクセスに関する課題などについて聞いていきたい。

(委員長)

松本市都市計画マスタープランの骨格構成方針図には、8種類の拠点を位置付けた。地域のへそとなる、地区交流拠点や交通拠点等を定めた。

立地適正化計画は、市街化区域を対象とした計画である。この計画が対象としない、市街化調整区域や都市計画区域外の説明会では、上位計画である総合計画・都市計画マスタープランやその他の計画に基づいて、地域の維持に取り組むことを説明する必要がある。

(委員)

パブリックコメントにおいて、都市機能誘導区域についての市民意見はあったのか。

(事務局)

区域設定については、意見がなかった。区域外における今後を心配する声や、今後高めるべき機能等についての意見があった。

(委員)

立地適正化計画に対して住民がどの程度理解しているかわからないが、居住誘導区域などを設定するうえで、地域への丁寧な説明は重要である。

## (2) 居住誘導区域の考え方について

(事務局)

・資料2の2を説明

(委員長)

居住誘導区域は、市街化区域の内側かつ都市機能誘導区域の外側に定める区域である。資料には、居住誘導区域の基本区域案を示しており、これが検討のたたき台となる。

今後の詳細検討において、土砂災害警戒区域の取扱いに関する記述が無い。松本市の東山部に土砂災害警戒区域等があるのではないか。

(事務局)

市街化区域の東山沿いに、土砂災害警戒区域等がある。原則として、居住誘導区域には含まない。

(委員長)

詳細検討においては、土砂災害警戒区域等についても記載すべき。居住誘導区域に含めるか、含めないかの判断については、今後検討すれば良い。

(委員長)

市街化区域全体に占める居住誘導区域の面積等を表す場合は、工業専用地域のように法的に居住でき

ない面積などを母数から除いた方が良い。作成する図面についても、もともと居住できないところは除いた方がわかりやすい。

(委員)

100mメッシュとはなにか。

(事務局)

国が公表している統計資料等は、500m×500mの500mメッシュデータが多い。資料3には、500mメッシュの図と、100mメッシュの図を掲載している。松本市においては、独自に住民基本台帳データを集計した100mメッシュのデータを作成しており、居住者の人数や年齢構成などを詳細に分析し、今年度の検討で活用したい。

(委員長)

500mメッシュは、正確には500m×500mではない。地球の緯度経度を考慮した、ほぼ500mのメッシュであり、日本全国をこのメッシュで区切って各種統計をとっている。松本市では、それを更に25分割し、精度の高い分析を行うということである。

(事務局)

・資料3を説明

(委員長)

居住誘導区域を定める基礎資料として、追加すべき調査項目等があればご意見をいただきたい。

(委員)

居住誘導区域を定めれば、そこにまちを形成していくことになる。居住を誘導することで、区域内の小中学校の児童数が今よりも増えることが考えられる。児童が増えても問題ないことを検証することで、居住誘導区域として問題がないと太鼓判が押せるのではないかな。

(委員長)

松本市の推計人口は減少することから、将来の居住誘導区域の人口密度の目標は、現在の人口密度を維持する程度になると思う。児童数のピークは過ぎていることから、現在の教室数で問題ないと思うが、過去の児童数やクラス数等の推移は調べた方がよい。

(委員)

寿台・松原は、過去に大きく人口が増えており、特異的だと思う。バス路線との連携する考え方が示されているが、この地区に人口が集まる理由はあるのか。

(事務局)

寿台・松原は、昭和40、50年代に団地等を整備した経過がある。現在は高齢化が進行し、老朽化する住宅や公園等の維持も課題となっている。

(委員)

市内で同様の地区はないのか。

(事務局)

他にもあるが、寿台には市営・県営の団地や民間住宅が集まっており、特に人口が集約されている。

(委員)

他都市では、バス路線の廃止や運行本数の減少が進み、バス中心とした拠点の形成が難しいと聞く。バス停を中心に人口が集まるような成功例が出来るかよい。

(委員長)

寿台・松原については、都市機能誘導区域を定めるときに議論をした。寿台・松原よりも奥に居住す

る住民サービスを維持したいという市の意向もあった。老朽化が進む団地対策、店舗や公共施設の維持などを考えなければいけない。公共交通も頑張って維持しないとけない。

(事務局)

公共交通ネットワークについて、松本市では地域公共交通網形成計画を策定した。バスの寿台線は、幹線バス路線として強化する計画であり、居住誘導区域とセットでネットワークを構築したい。寿台・松原の維持は、様々な分野と連携をとって進めたい。

(委員)

地域別意見交換会は、どのようなスタイルでやるのか。専門的な話に偏ると、出席者から意見が出ない可能性もある。

(事務局)

市から地域別の分析結果を示したうえで、地域の住まい方や特色を認識してもらいたい。郊外にはゆとりのある居住環境があり、市街地には様々な機能があり密集して住む環境が整っている。目指すべき都市構造のあり方を理解してもらったうえで、それぞれの地域の住まい方について意見をもらう。意見交換会の開催について町会等にも相談し、より多くの方に参加してもらえる将来のまちづくりの懇談会としたい。

(委員)

今後の取組みがバラ色の地域では多くの参加者がいるかもしれないが、そうでない地域においても参加してもらえるような工夫が必要。

(委員長)

意見交換会の方法は、相談しながら進めて欲しい。下準備をしておけば、軌道に乗るのは早いと思う。

(委員)

最初の何回かは、空振りすることがあっても良い。そうした意識をもって、懇談会に取り組んでもらいたい。

(委員長)

次回会議は、秋に予定している。それまでに分析してほしいことがあれば、事務局に提案して欲しい。委員の皆さまには、地元の意見交換会に参加し、様子を見て、会議の情報を共有していただきたい。

(委員)

資料3の医療施設徒歩圏は、地域内の施設に限定して分析しているのか。

(事務局)

徒歩圏の分析は、地域界を考慮していない。

(委員長)

次回の市民会議では、居住誘導について概ねの範囲や考え方が示されると思う。委員の皆さんには、ご協力をよろしくお願ひしたい。また、事務局においては、地域別意見交換会の取組状況などについて、適宜委員に情報提供していただきたい。

## 5 閉会

(事務局)

委員の皆さんには、意見交換会の開催を決定したら、日程等をご案内する。次回市民会議は、日程を調整し、通知する。今回の会議結果はホームページに掲載する。

以上